



三陸ジオパークけせん
地域協議会の様子

**三陸ジオパークけせん
地域協議会などを設立**
気仙地域では、住民が三陸ジオパークを共有し、参画できる仕組みを構築するとともに、三陸ジオパークの活動推進に係る一層の体制強化を図るため、大船渡市、陸前高田市、住田町の2市1町により、本年8月22日に「三陸ジオパークけせん地域協議会」(会長 大船渡市長)を設立しました。

また、10月4日に、三陸海岸南部の大槌町、釜石市から気仙地域を含み気仙沼市までの4市2町により、「三陸ジオパーク推進協議会南部ブロック会議」(会長 釜石市長)を設置し、構成市町や地域協議会との情報交換および共有化を図りながら、連携を強化していくこととしました。

**継続的なジオパーク
活動を目指して**
三陸ジオパークは、日本ジオパーク委員会による平成29年11月の再認定審査の結果、条件付き再認定となり、次の再認定審査は、平成31年の秋に行われる予定です。

その際には、地域ごとの運営体制や三陸ジオパークとしての一体的な活動の推進など、昨年の審査で指摘された課題の解決が図られているかなどが審査される見通しです。

ジオパークは、単に地質・地形遺産があるということだけでなく、それらに関わる地域の人のさまざまな活動まで含めて評価され認定されるものです。

来年の再認定審査に向けて、大船渡市では三陸ジオパークけせん地域協議会を中心とした活動を展開していきますが、そのためには住民の皆さんの三陸ジオパークへの理解の促進と活動への参画が重要になってきます。



▶問い合わせ先＝観光推進室(管内線113)



ジオサイト「碁石海岸・穴通磯」

三陸ジオパークの見どころを紹介します

5億年にわたる大地の歴史

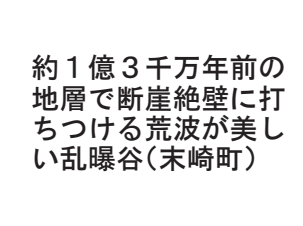
三陸ジオパークでは、およそ5億年もさかのぼる地球と生命がおりなす壮大な変遷の物語を、ダイナミックな自然の景観とともに見ることができます。

国内最古級の時代からの地層がそろって見られるのは三陸地域だけであり、多種多様な化石も見つかっています。

三陸地域は、地球規模の大地と気候変動の変遷から成り立ちを知り、地球を語る事ができる場所です。



約4億2千万年前の化石が発見された樋口沢(日頃市町)



約1億3千万年前の地層で断崖絶壁に打ちつける荒波が美しい乱曝谷(末崎町)

地域を支えてきた豊富な鉱産資源

海際まで広がる北上山地には、金、鉄、銅および石灰岩などの鉱産資源が豊富です。

これが日本最初の近代製鉄所を誕生させ、地元の鉱業を大きく発展させました。気仙地域に点在する金山は、奥州藤原氏による平泉の黄金文化を華開かせたとも伝えられています。三陸地域に根付く文化と歴史は、私たちの誇りです。

三陸の海が育む豊かな海の幸

三陸ジオパークといえばやはり海の幸です。

三陸沖の暖流(黒潮・津軽暖流)と寒流(親潮)が生み出す多種多様な生態系は、世界有数の漁場を育んでいます。そしてリアス海岸特有の複雑な海岸地形が、アワビやウニ、カキ、ワカメ、ホヤなどの豊かな恵みを与えてくれます。



大船渡産のアワビ、ワカメ

「ジオパーク」とは、地球や大地を表す「ジオ」と公園を意味する「パーク」を組み合わせた言葉で、太古から現在までの地形や地質、歴史、動植物、人々の暮らしなどを含めた、地球の魅力をまるごと楽しむことができる自然の公園です。

本号では、本市を含む沿岸16市町村で構成される「三陸ジオパーク」について紹介します。

日本ジオパークと世界ジオパーク

「日本ジオパーク」は、地質遺産の価値の評価と、その保全、活用の仕組みと取り組みについて日本ジオパーク委員会が行っています。平成30年9月現在で44地域あり、そのうち9地域は、ユネスコ執行委員会から「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されています。

「三陸ジオパーク」は、平成25年9月に日本ジオパークに認定されました。青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの南北約220km、東西約80kmで、その海岸線は約300kmとなる日本一広大なジオパークです。

震災の記憶を後世に伝え学ぼう

東日本大震災の津波は、三陸地域で自然の恵みを楽しんできた私たちに、自然は時に大きな脅威をもたらすことを再認識させました。

三陸ジオパークでは、自然との共生のあり方や人とのつながりの大切さを見つめなおし、繰り返される災害に立ち向かい、将来に備えるために、震災の記憶を後世に伝えるために、くことをメインテーマとして掲げています。

三陸ジオパークのテーマ

悠久の大地と海と共に生きる
～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ～